

市立小中学校の教育環境整備の推進について

第1 横須賀市立小中学校適正配置審議会の答申について

1 諮問

教育委員会は、令和4年5月23日に田浦地域及び走水・馬堀地域における市立小中学校の教育環境整備の推進について、横須賀市立小中学校適正配置審議会へ諮問を行いました。

諮問を受けた横須賀市立小中学校適正配置審議会は、地域の学校関係者、保護者、地域の方々に構成する地域別小中学校教育環境整備検討協議会に意見聴取を行い、検討を行いました。

2 地域別小中学校教育環境整備検討協議会における方策案

田浦地域及び走水・馬堀地域における小中学校教育環境整備検討協議会での意見を集約・整理し、それぞれ3つの方策案にまとめ、審議会において報告しました。

・田浦地域の方策案

方策案1 田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する。

方策案2 長浦小学校に中学校を併設する。また、田浦中学校に小学校を併設する。

方策案3 田浦小学校を現地で建て替えする。

・走水・馬堀地域の方策案

方策案1 走水小学校区を馬堀小学校区へ編入する。

方策案2 走水小学校区を現状のまま存続し、定住促進策を講じる。

方策案3 小規模特別認定校として走水小学校を存続する。

3 横須賀市立小中学校適正配置審議会の答申

小中学校教育環境整備検討協議会による方策案をもとに、横須賀市立小中学校適正配置審議会にて審議を行った結果、双方、方策案1の田浦小学校と長浦小学校及び走水小学校と馬堀小学校の統合を行う方策が妥当であるとする答申が審議会から教育委員会へ提出されました。

また、方策の実施に当たっては、両校の児童が円滑に新たな環境で学べるようにすることや通学の安全を確保する方策を講じる必要があること、全市的な遠距離通学に対する方策の検討が必要であることが付言されています。

(写)

令和5年(2023年)10月31日

横須賀市教育委員会
教育長 新倉 聡 様

横須賀市立小中学校適正配置審議会
委員長 出石 稔

田浦地域における市立小中学校の教育環境整備の推進について (答申)

令和4年5月23日付け、横教政第14号により諮問を受けました田浦地域における市立小中学校の教育環境整備の推進について下記のとおり答申します。

記

1 答申内容

田浦小学校区を長浦小学校区に編入する方策が妥当である。

2 理由

田浦地域においては、田浦小学校の学校施設の老朽化及び田浦小学校と長浦小学校の学校規模の小規模化が課題となっており、現地での建て替えが困難であることから、両方の課題を解決するための方策として判断した。

3 その他資料

- (1) 横須賀市立小中学校適正配置審議会における意見の概要 ※別添資料1
- (2) 参考資料 ※別添資料2

以上

付言

教育環境整備の方策を実施するに当たっては、両校の児童が円滑に新たな環境で学べるようにすることや通学の安全を確保する方策を講じる必要があると考えます。

また、通学路が遠距離となっている地域もあることから、今後は、全市的な遠距離通学に対する方策の検討が必要であることを申し添えます。

(写)

令和5年(2023年)10月31日

横須賀市教育委員会
教育長 新倉 聡 様

横須賀市立小中学校適正配置審議会
委員長 出石 稔

走水・馬堀地域における市立小中学校の教育環境整備の推進について（答申）

令和4年5月23日付け、横教政第14号により諮問を受けました走水・馬堀地域における市立小中学校の教育環境整備の推進について下記のとおり答申します。

記

1 答申内容

走水小学校区を馬堀小学校区に編入する方策が妥当である。

2 理由

走水・馬堀地域においては、走水小学校と馬堀小学校の学校規模の小規模化が課題となっており、特に走水小学校においては複式学級となっていることから、喫緊の課題を解決するための方策として判断した。

3 その他資料

- (1) 横須賀市立小中学校適正配置審議会における意見の概要 ※別添資料1
- (2) 参考資料 ※別添資料2

以上

付言

教育環境整備の方策を実施するに当たっては、両校の児童が円滑に新たな環境で学べるようにすることや通学の安全を確保する方策を講じる必要があると考えます。

また、通学路が遠距離となっている地域もあることから、今後は、全市的な遠距離通学に対する方策の検討が必要であることを申し添えます。

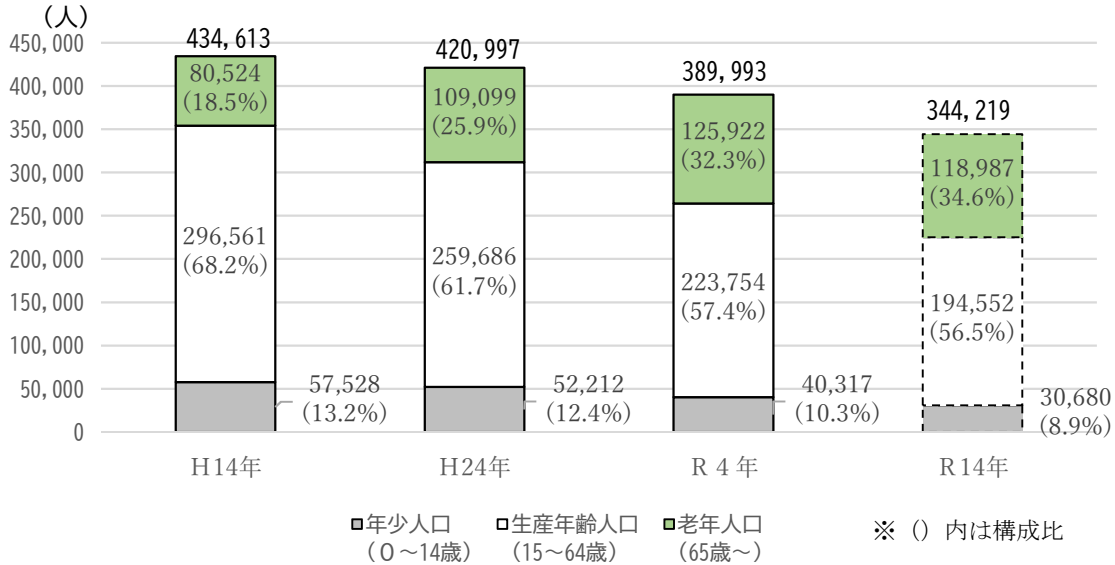
第2 検討の背景

1 少子高齢化を伴う人口減少について

本市の総人口は、平成5年度の439,280人をピークに減少し、今後もさらに減少が見込まれます。

また、この状況は本市だけではなく、全国的な状況だと考えられます。

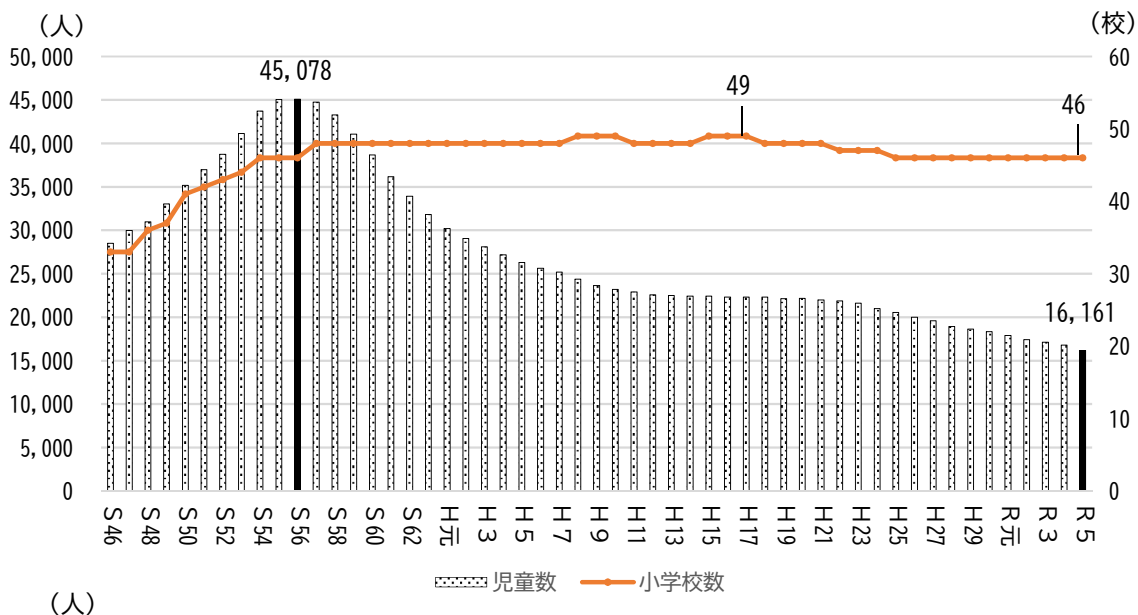
【本市の総人口（年齢区分別）の推移及び今後の見込み】



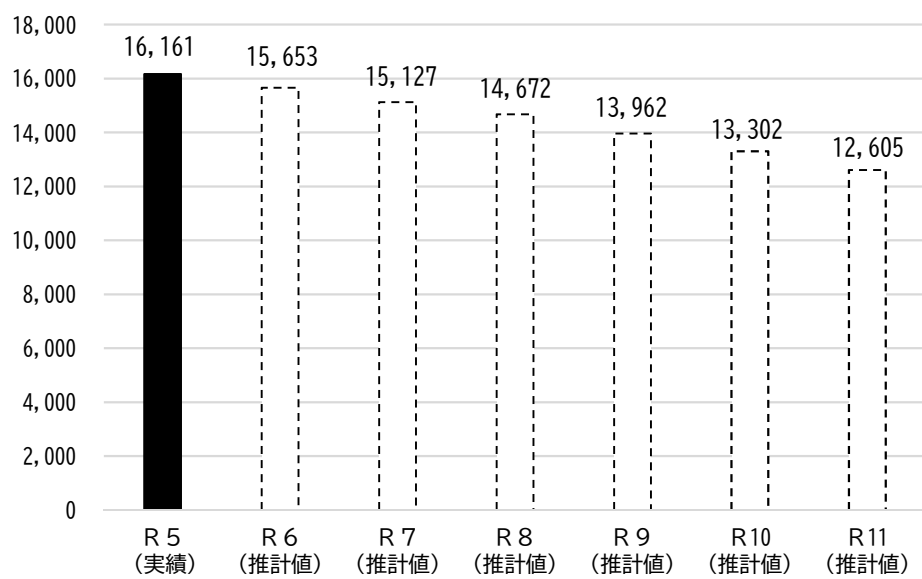
2 小学校児童数の減少について

小学校の児童数は昭和56年の45,078人をピークに減少し、1のおとより少子化により、今後さらに児童数が減少することが見込まれます。

【小学校児童数、学校数の推移】



【小学校児童数の今後の見込み】



第3 横須賀市教育環境整備計画について

1 教育環境整備計画の概要

急激な人口減少が見込まれる本市において、「横須賀市の目指す教育の姿～あなたが好き私が好き横須賀が好きと誇れる人づくり～」の実現に向けた教育環境を整備するために策定しています。

2 小中学校の現状と課題について

(1) 学校規模について

昭和56年(1981年)の児童数のピーク時と昭和61年(1986年)の生徒数のピーク時には、大規模校(25～30学級)と過大規模校(31学級以上)の割合が小学校で約54%(25校)、中学校で約25%(6校)でした。児童生徒数の減少に伴い、現在、大規模校と過大規模校はなく、小規模校(6～11学級)が増加しており、小学校で約30%(14校)、中学校で約48%(11校)が小規模校となっています。中には1学級の人数が著しく少ない学校や男女比が偏っている学校もあります。

このような状況の中で、人間関係面においては関係が固定化しやすいことなど、指導面においては多様な意見等に触れることが難しいことや集団学習に制約が生じることなど、学校運営面においてはバランスの取れた教職員配置が難しいことや教職員1人当たりの校務が幅広く負担になることなど、さまざまな課題が生じています。

子ども同士が豊かな人間関係を築き、社会性を身に付け、さまざまな形態による効果的な学習を行ったり、集団の相互作用による思考力の育成を図ったりするために、活動に応じて少人数のグループから大きな集団まで、適切な規模の集団を組み、多様な教育活動を展開する必要があります。

学校教育においてはある程度の規模が必要であり、「横須賀市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」においては、適正規模の範囲を小中学校ともに12学級から24学級としています。

このような学校規模に係るさまざまな課題を解消するために教育環境の整備を進めていきます。

■学校規模の定義

	小学校	中学校
過小規模校	1～5学級(複式学級*あり)	1～2学級(複式学級*あり)
小規模校	6～11 学級(各学年1～2学級)	3～11 学級(各学年1～4学級)
適正規模校	12～24 学級(各学年2～4学級) <ul style="list-style-type: none"> ・各学年でクラス替えが可能 ・学年運営が効果的に行える ・教員と児童が十分に関わりを持つことができる 	12～24 学級(各学年4～8学級) <ul style="list-style-type: none"> ・各学年でクラス替えが可能 ・学年運営が効果的に行える ・教員と生徒が十分に関わりを持つことができる ・5教科の教員が複数配置でき、選択教科、部活動などの指導体制が充実する
大規模校	25～30 学級(各学年4～5学級)	25～30 学級(各学年8～10 学級)
過大規模校	31 学級～(6学級以上の学年あり)	31 学級～(11 学級以上の学年あり)

*複式学級…2つ以上の異なる学年を1つにして編制した学級

*学級数は学校規模の比較のため、通常学級を記載

■学校規模ごとの学校数 (小学校)

過小規模校 (通常学級5以下)	小規模校 (通常学級6～11)	適正規模校 (通常学級12～24)
1校	13校	32校

■学校規模ごとの学校数 (中学校)

小規模校 (通常学級3～11)	適正規模校 (通常学級12～24)
14校	9校

(2) 通学距離について

「横須賀市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」においては、適正な通学距離を小学校で2キロメートル程度、徒歩30分程度、中学校で3キロメートル程度、徒歩45分程度としています。

しかしながら、学校の立地によって自然環境、その他住宅の偏在など地理的条件により、この基準を超える地域がありますが、市内の公共交通機関の整備状況等、生活圏の実情や地域の特性を勘案し判断します。

■適正な通学距離の範囲

小学校	中学校
●2キロメートル程度 徒歩30分程度	●3キロメートル程度 徒歩45分程度

■通学距離の基準を超える学校

小学校（2キロ程度以上）4校	中学校（3キロ程度以上）3校
明浜小、野比東小、武山小、大楠小	田浦中、武山中、大楠中

※実際に通学する児童生徒の有無にかかわらず、通学区域内で最も遠い距離を計測したもの

(3) 学校施設について

本市の学校施設は、児童生徒の増加を背景に昭和 50 年代に集中して建設され、令和 2 年度（2020 年度）時点で、全体の約 2 割の施設が建築後 50 年以上経過しており、経年劣化が進んでいます。なお、建築後 30 年以上経過している施設は、全体の約 8 割を超えています。

また、本市は起伏の多い丘陵地に位置しており、一部の学校では、学校施設の位置する場所が土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）*に指定されています。レッドゾーンに位置している学校は、建て替えコストが高くなることや安全性への配慮から建て替えが困難な施設もあります。

今後、学校施設を維持していくためには、大規模改修工事や建て替えに多額の費用が必要になるだけでなく、その時期も一時期に集中することが想定され、効率的に施設を運営していくことが求められています。

令和 3 年（2021 年）3 月に策定した「横須賀市学校施設の長寿命化計画」において、本市の学校施設は一定の周期に老朽化対策を目的とした改修を実施していることから、目標耐用年数を上限値である 80 年としています。

しかし、建て替えには、期間を要することから、築 60 年以上の学校施設については、対策の検討を始める必要があります。

建て替えの検討に当たっては、児童生徒数の将来推計を踏まえた上で、法令上の制限や学校の敷地面積、レッドゾーン等に留意しつつ、学校教育に支障がないように考慮します。

*土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（土砂災害防止法）により指定された区域。区域に指定された場合、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造の規制等が行われます。

■築 60 年以上の学校数

小学校	中学校
11 校	なし

※経過年数が異なる学校施設が混在する場合は、最も古い学校施設の経過年数を記載

3 教育環境整備計画の対象地域・対象校について

教育環境整備計画の計画期間は、「横須賀市教育振興基本計画」に合わせて、令和4年度から令和11年度までの8年間としており、計画期間を前期（令和4年度から令和7年度）、後期（令和8年度から令和11年度）に分けて教育環境の整備を進めています。

前期計画の対象地域は、田浦地域（田浦小学校、長浦小学校）及び走水・馬堀地域（走水小学校、馬堀小学校）であり、後期計画の対象地域は、逸見・中央地域（逸見小学校、沢山小学校、桜小学校、汐入小学校）です。

■検討スケジュール

地域	行政区 (中学校区)	前期計画				後期計画				次期計画
	対象校	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12 以降
田浦地域	田浦行政 (田浦中)	協議会の 設置・検討								
	田浦小 長浦小									
走水・馬堀地域	大津行政 (馬堀中)	協議会の 設置・検討								
	走水小 馬堀小									
逸見・中央地域	逸見行政 本庁 (坂本中)									
	逸見小 沢山小 桜小 汐入小									
地域未定	行政区 (中学校区) 未定									
	対象校 未定									

注：前期計画（R4-R7）と後期計画（R8-R11）の間に「後期計画の見直し」という縦書きのラベルがあります。また、後期計画のR8-R11の間に「次期計画の策定」という縦書きのラベルがあります。

注：田浦地域と走水・馬堀地域では、前期計画の協議会設置・検討（R4-R7）から後期計画の【段階的な検討が必要な場合】（R8-R11）へと移行する流れが示されています。

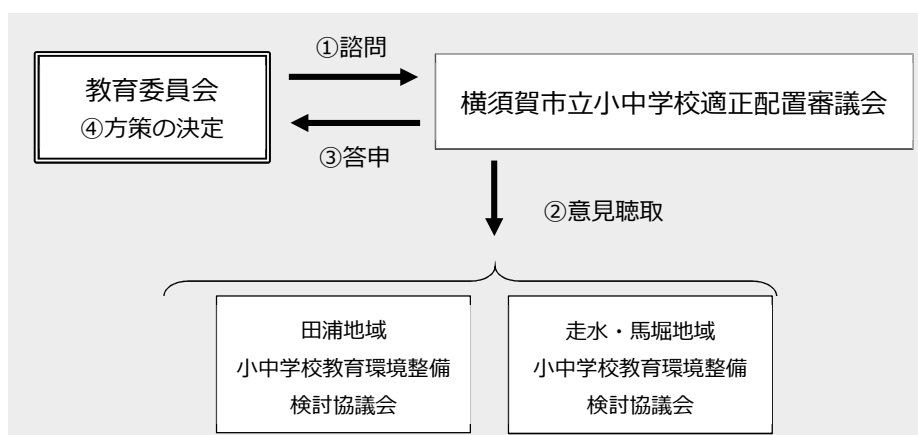
注：逸見・中央地域では、後期計画の協議会設置・検討（R8-R11）から次期計画の【段階的な検討が必要な場合】（R12以降）へと移行する流れが示されています。

注：地域未定では、協議会設置・検討（R8-R11）の後に、次期計画（R12以降）へと移行する流れが示されています。

4 検討体制・組織について

教育委員会から諮問を受けた横須賀市立小中学校適正配置審議会は、地域ごとに学校関係者、保護者、地域の方々に構成する地域別小中学校教育環境整備検討協議会の意見を聴取し、その内容について検討・審議を行い、答申をまとめました。

なお、具体的な方策の決定につきましては、教育委員会による審議を経て決定されます。



第4 教育環境整備前期計画対象地域の課題等について

1 田浦地域

(1) 田浦地域における課題

- ① 田浦小学校、長浦小学校ともに小規模化が進み、令和5年度では全学年が単学級となっており、今後も児童数の減少が見込まれる。
- ② 田浦小学校は、校舎の築年数が70年を経過し建替時期を迎えているが、防災面や周辺道路の状況から現地での建て替えが困難である。

(2) 田浦地域の小学校の状況

① 児童・学級数（令和5年5月1日現在）

学年	田浦小学校		長浦小学校	
	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	23 (6)	1	24 (0)	1
2年	20 (3)	1	21 (1)	1
3年	23 (2)	1	29 (1)	1
4年	18 (0)	1	16 (0)	1
5年	22 (2)	1	33 (2)	1
6年	24 (3)	1	17 (1)	1
合計	130 (16)	11 (5)	140 (5)	8 (2)

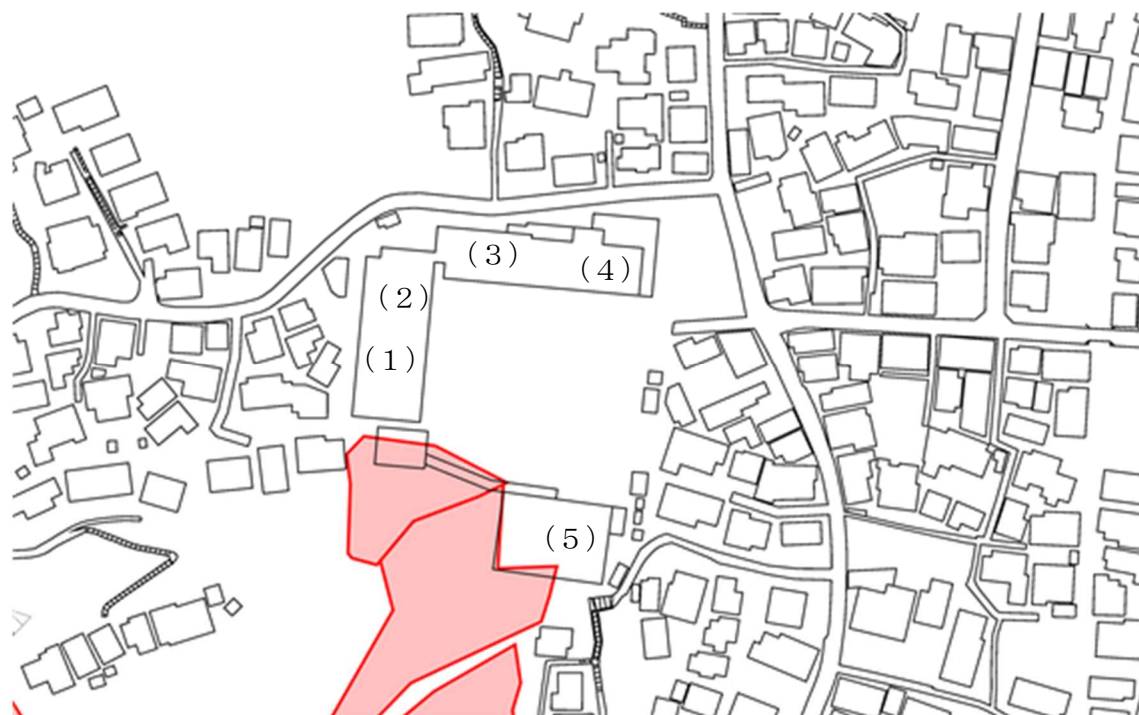
※ () は特別支援学級の内数

② 児童・学級数推計

学校名		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11
田 浦 小	児童数	130	117	109	108	101	102	93
	学級数	通常	6	6	6	6	6	6
		特支	5	5	5	5	5	5
長 浦 小	児童数	140	137	123	122	112	105	89
	学級数	通常	6	6	6	6	6	6
		特支	2	2	2	2	2	2

③ 施設の状況

【田浦小学校】

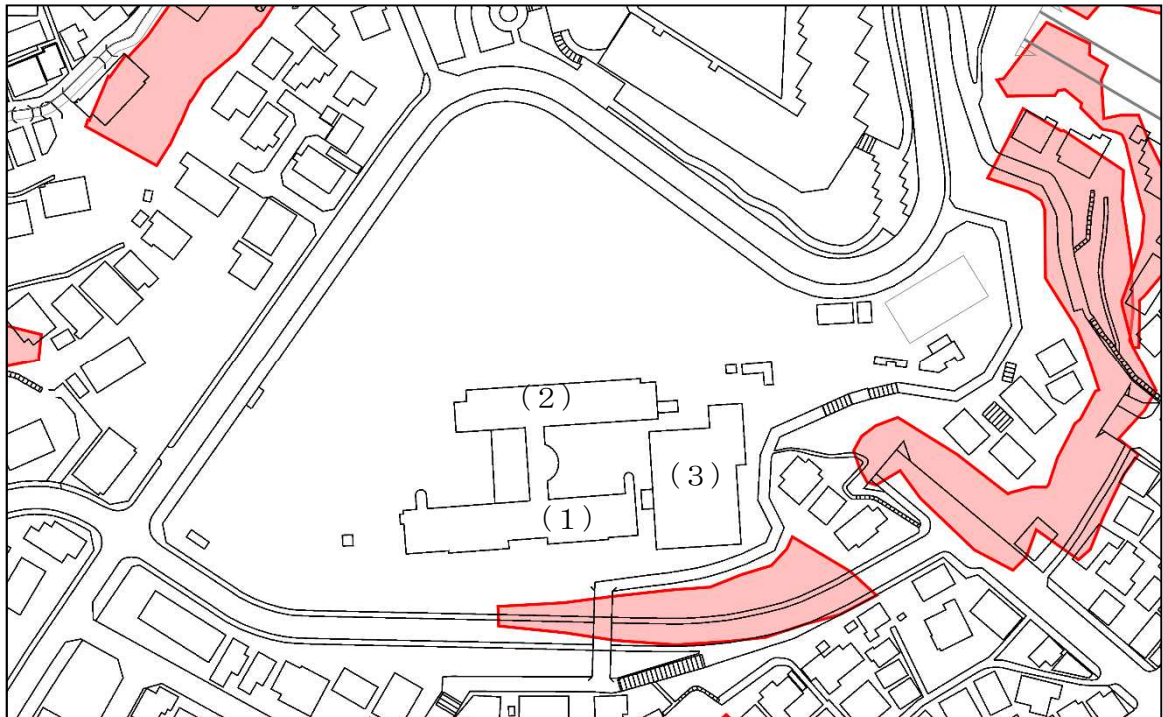


※網掛けは土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

令和5年（2023年）現在

番号	建物名	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		建築年数
				西暦	和暦	
(1)	教室棟	3	1190	1953年	昭和28年	70年
(2)	教室棟	3	983	1959年	昭和34年	64年
(3)	管理教室棟	3	765	1967年	昭和42年	56年
(4)	管理教室棟	3	1152	1970年	昭和45年	53年
(5)	体育館	1	509	1974年	昭和49年	49年

【長浦小学校】



※網掛けは土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

令和5年（2023年）現在

番号	建物名	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		建築年数
				西暦	和暦	
(1)	教室棟	4	2119	1991年	平成3年	32年
(2)	管理特別教室棟	4	2010	1991年	平成3年	32年
(3)	体育館	2	771	1991年	平成3年	32年

2 走水・馬堀地域

(1) 走水・馬堀地域における課題

- ① 走水小学校、馬堀小学校ともに小規模化が進んでいる。
- ② 特に走水小学校は児童数が32人と市内で最も小規模であり、複式学級となっている。隣接する馬堀小学校も単学級が存在する小規模校で、今後も児童数、学級数の減少が見込まれる。

(2) 走水・馬堀地域の小学校の状況

① 児童・学級数（令和5年5月1日現在）

学年	走水小学校		馬堀小学校	
	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	4 (0)	1	42 (2)	2
2年	1 (0)		42 (3)	2
3年	5 (0)	1	46 (3)	2
4年	10 (3)	1	33 (1)	1
5年	4 (1)	1	54 (4)	2
6年	8 (1)	1	46 (4)	2
合計	32 (5)	7 (2)	263 (17)	16 (5)

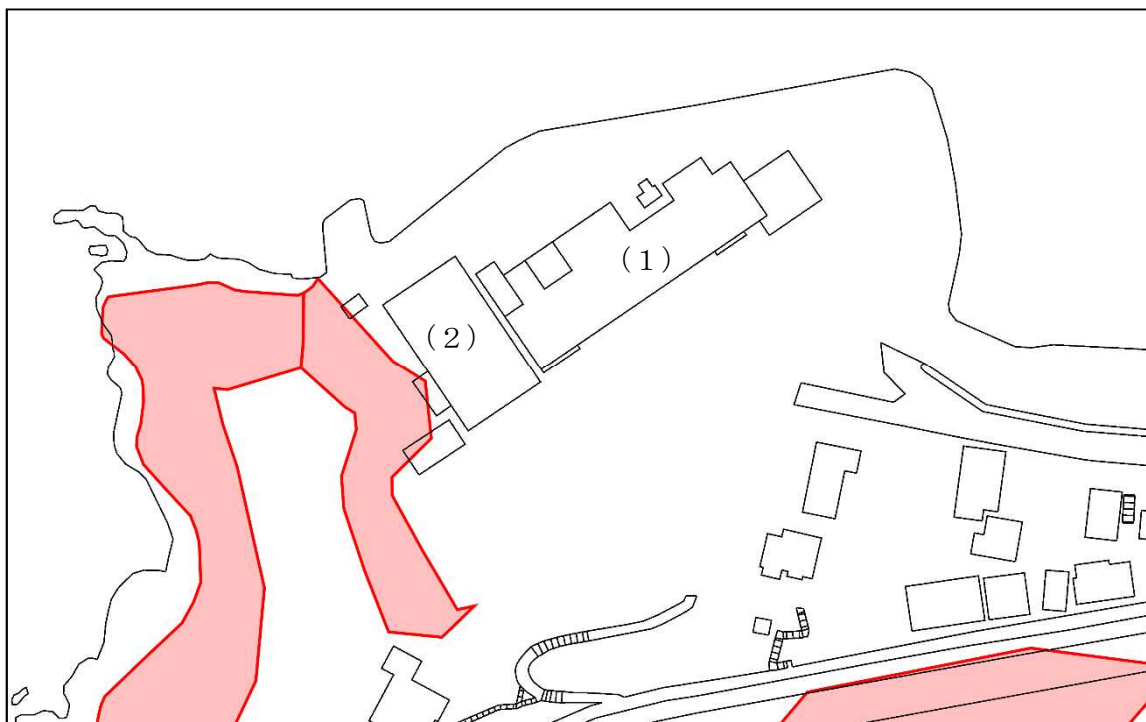
※ () は特別支援学級の内数

② 児童・学級数推計

学校名		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11	
走 水 小	児童数	32	30	32	31	31	36	37	
	学級数	通常	5	5	5	5	5	6	6
		特支	2	2	2	2	2	2	2
馬 堀 小	児童数	263	253	236	249	239	231	223	
	学級数	通常	11	11	11	12	11	10	9
		特支	5	5	5	5	5	5	5

③ 施設の状況

【走水小学校】

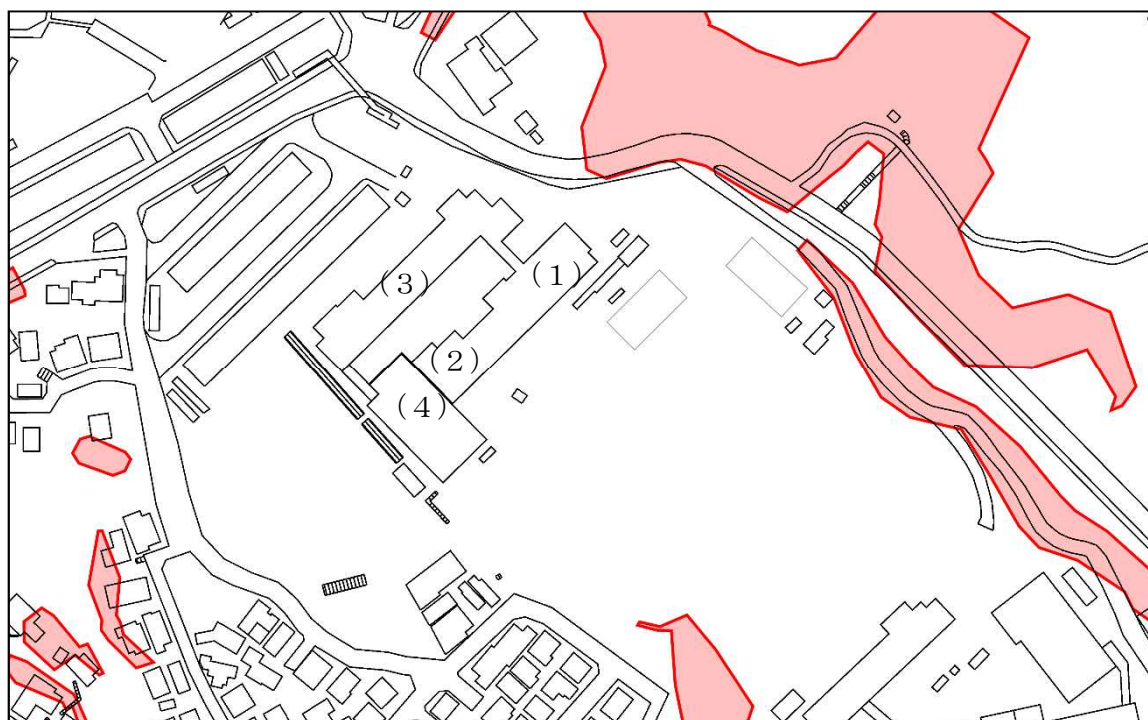


※網掛けは土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

令和5年（2023年）現在

番号	建物名	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		建築年数
				西暦	和暦	
(1)	管理教室棟	4	2939	1974年	昭和49年	49年
(2)	体育館	1	460	1974年	昭和49年	49年

【馬堀小学校】



※網掛けは土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

令和5年（2023年）現在

番号	建物名	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		建築年数
				西暦	和暦	
(1)	管理教室棟	3	1271	1971年	昭和46年	52年
(2)	教室棟	3	1278	1972年	昭和47年	51年
(3)	教室棟	3	2523	1978年	昭和53年	45年
(4)	体育館	1	668	1975年	昭和50年	48年

(参考1) 地域別小中学校教育環境整備検討協議会の開催経過

○田浦地域

- 第1回 令和4年 5月26日 (木)
- 第2回 令和4年 7月13日 (水)
- 第3回 令和4年 10月3日 (月)
- 第4回 令和5年 1月31日 (火)
- 第5回 令和5年 3月29日 (水)
- 第6回 令和5年 5月19日 (金)
- 第7回 令和5年 11月16日 (木)

○走水・馬堀地域

- 第1回 令和4年 5月30日 (月)
- 第2回 令和4年 7月19日 (火)
- 第3回 令和4年 10月14日 (金)
- 第4回 令和5年 1月23日 (月)
- 第5回 令和5年 3月17日 (金)
- 第6回 令和5年 5月25日 (木)
- 第7回 令和5年 11月9日 (木)

(参考2) 横須賀市立小中学校適正配置審議会の開催経過

- 第1回 令和4年 5月23日 (月)
- 第2回 令和4年 12月26日 (月)
- 第3回 令和5年 6月26日 (月)
- 第4回 令和5年 7月31日 (月)
- 第5回 令和5年 9月14日 (木)
- 第6回 令和5年 10月12日 (木)